

第 44 回ダム現地見学会 開催報告

現地見学小委員会 事務局

第 44 回ダム現地見学会は、一般社団法人日本大ダム会議とダム工学会との共催で、平成 30 年 11 月 1 日（木）～2 日（金）に開催しましたので報告いたします。

1. 概 要

今回の見学会では、平成 17 年台風 14 号による記録的な大規模降雨に伴い、「ダム通砂運用」を計画し竣工した西郷ダム（九州電力）と現在建設中の山須原ダム（九州電力）の 2 ダムを見学しました。また、耳川水系の最上流に位置する日本で最初の高さ 100 m を超える大規模アーチダムの上椎葉ダム（九州電力）の視察もしました。

「ダム通砂運用」とは、大規模出水が予想される場合に、事前にダムの水位を下げ本来の川の状態に近づけることで、上流から流れ込む土砂を下流に流せるようにすることです。西郷ダムでは、既設ローラーゲート 8 門のうち、中央 4 門を撤去後、越流天端を約 4m 切り下げて、ローラーゲート 2 門新設しました。山須原ダムでは、既設ラジアルゲート 8 門のうち中央 2 門を撤去し越流天端を約 9m 切り下げ、大型ラジアルゲート 1 門（幅 13.6m×高さ 15.5m）を新設するもので、大型ラジアルゲートは全開にした状態で設置することで施工中の異常出水にも対応できるように施工していました。さらに質疑応答では、出水時の施工状況や 9m 切り下げた場合の堤体の安定計算、及び昭和 7 年に竣工した堤体を切断したコンクリート片等の質問があり、留意点や苦勞されている点も含め、実際に従事されている方々の生の声を聞くことができ、参加者とともに活発な議論を行うことができました。

今回の見学会団長は、山口嘉一国立研究開発法人土木研究所理事にお引き受けいただき、「ダム設計・施工・維持管理における最近の話題」と題して、ご講演いただきました。2 日目に訪れた上椎葉ダムは、アーチの造形美と当時の技術水準の高さに、多くの参加者が感嘆するとともに、当時の設計や維持管理について活発な質疑がありました。

本見学会では、ダムの設計や施工を専門とする若手からベテランまで幅広い層の方々にご参加いただき、参加者から現在建設中のダム現場で推進される再開発施工に関する知識を深める意味でも有意義な見学会だったという声もいただきました。高千穂峡の見学は時間の都合でできませんでしたが、高千穂の夜神楽の見学のオプションもあり、参加者からは非常に好評でした。



上椎葉ダム堤頂部右岸側での集合写真

2. 参加者

山口団長以下、42名の参加を頂きました（小委員会事務局幹事を含む）。参加者の内訳は、財団3名、県職員1名、電力会社8名、ゼネコン・メーカ11名、コンサルタント19名となっています。

3. 見学場所

西郷ダム（改造工事）

所在地 宮崎県東臼杵郡美郷町西郷小原字赤木
目的 P、流域面積 647.8 km²、有効貯水容量 1,130 千 m³
型式 G、H=20m、L=84.5m、V=13,000 m³
管理者 九州電力株式会社
施工者 熊谷組、飛島建設、志多組

山須原ダム（改造工事）

所在地 宮崎県東臼杵郡諸塚村大字家代字戸下
目的 P、流域面積 598.6 km²、有効貯水容量 963 千 m³
型式 G、H=29.4m、L=91.1m、V=22,000 m³
事業者 九州電力株式会社
施工者 前田建設工業、青木あすなろ建設、松本建設、

上椎葉ダム

所在地 宮崎県東臼杵郡椎葉村大字下福良
目的 P、流域面積 223.6 km²、有効貯水容量 76,000 千 m³

型式 G、H=110m、L=341m、V=390,000 m³

事業者 九州電力株式会社

施工者 鹿島建設

4. 行程：

《11月1日》

10：00 宮崎空港 集合・出発（移動途中、昼食）

14：30 西郷ダム 現場見学

15：30 山須原ダム 現場見学

17：00 宿泊ホテル 到着

（宿泊先）杜の宿 ホテル 四季見

《11月2日》

9：00 山口団長 講演（於 宿泊ホテル）

10：00 宿泊地 出発（移動途中、昼食）

13：00 上椎葉ダム着 現場見学

16：50 宮崎空港 着 解散

5. 謝辞

今回の見学会を通じて、九州電力株式会社、前田建設工業・青木あすなろ建設・松本建設共同企業体、IHI インフラシステム・西技工業・倉本鐵工共同企業体の皆様には、ご多忙の中、多大なご協力を賜りました。ここに厚く御礼申し上げます。